事業所名	四條畷市立児童発達支援センター	支援プログラム	作成日	令和7年	2 月	28 日
------	-----------------	---------	-----	------	-----	------

		チネハロ	口体或中立儿童儿是人族也				ス版ノロ			I FPAID	INTH /	2 / 3	20 Ц
	法	人(事業所)理念	子どもたち一人ひとりの個	1性を尊重し、可能性	住を育む ※四條畷で	市子ども	・子育て支援事業計画の	基本理念に基づく					
	支援方針		障がい児及び発達の支援か 応じるため、四條畷市立児	「必要な児童に対し、 見童発達支援センタ−	日常生活における -を設置する。 ※F	基本的な 四條畷市	動作の指導、独立自活に 立児童発達支援センター	必要な知識技能の 条例(設置)第1	付与、集団生活へ 条に基づく	の適応訓練等を	行うとともに、	発達に関する相	談等に
	営業時間		8 時	<mark>45</mark> 分から	17時	ŧ	15 分まで		送迎実施の有無	なし			
							支 援 内	容					
		健康・生活	毎日、同じ日課を繰り返す ギー除去食を提供します。 健康状態の維持、生活リス 日常生活活動(移動・排泄 い道具の検討、集中しやす	ヾムの形成の支援方法 せ・食事・着脱・整容 トい環境設定を考えま	長を考えます。 緊)のスキルを身に <sup>∼</sup> ₹す。	つけるた	めに、遊びの中や実際の	場面において、体	の動かし方を知る	機会を提供しま			
	本	運動・感覚	小さな集団の特性を生かし、お子さんが安心して主体的に活動できるように支援します。遊びや生活を通して、全身や体幹、五感の発達を促します。 好む感覚や取り入れにくい感覚、取り入れすぎる感覚を考え、自己のイメージを育む支援を行います。 姿勢を保つ、バランスをとる、力加減やスピードの調整といった大きな体の使い方(粗大運動)や手先を使う遊びや道具操作など細かな体の使い方(微細運動)を、普段の遊びや日々の生 活動作の中で支援を行います。 集団での運動遊びや体操、また、作業療法や理学療法の中で個別で集中して体を使う時間を提供します。										
	人	認知・行動	どのような方法、環境設定であれば、「状況の把握がしやすいのか、スムーズに動作へ移しやすいのか」を検討し、支援を行います。 お子さん自身が、「楽しい」「できた」「もう1回したい」と思え、次の行動へ繋げられるように関わり方や活動内容を工夫します。										
		言語 コミュニケーション	お子さんの気持ちに寄り添った丁寧な関わりによって、大切にされている実感を持ち、自己肯定感を高め、人と関わる力、自分の気持ちを表現する力を育みます。 気持ちを伝える、相手の話を聞く力を育むため、アイコンタクトや指さし、ジェスチャー、模倣/復唱などノンバーバルな表現方法から、人へ伝えられる機会を提供します。 大人や友達との関わりの中で、気持ちを伝えたことで楽しいことがあった経験や、相手の話を聞いたことで自分のしたいことへ繋がるきっかけになる経験を持つことで、コミュニケー ンを広げられるよう支援します。								ーショ		
		人間関係 社会性	集団の中で、順番や約束こてほしい」など)に実際のす。また、感情が高ぶった	)体験や大人の代弁を	E通して気づく経験?	を提供し	ます。相手がどう感じて						
		家族支援	・個別支援計画を作成するついてお話を伺い支援計画関わり方などを一緒に考え・心理士による発達相談、ます。 ・お子さんの発達や特性、・子育てのストレスを減らます。	画を作成します。また ます。 言語聴覚士による言 関わり方のコツに関	三、ご家庭での困り 言語相談及び小児神組 関する学習会を実施し	事につい 経医師、 します。	て、ご家庭でもできるよ 小児整形医師による診察	うな環境作りや 、相談を実施し	移行支援	保護者の方の同	同意のもと、移行 経経過、支援方法	接を継続できる 分にお子さんの 等に関わる情報	)発達や
	地	域支援・地域連携	・地域のこども園と当セン た、行事やイベント(節矢 ・市内の公立私立園の代表 す。	か、消防車が来た時	持等)に参加し、交流	もしていま	きす。		職員の質の向上	大阪の保育講座研修等を実施、	☑、その他必要に 受講しています	古世の二四レ	-内での
		主な行事等	入園・進級式、季節の行事 ぐる一ぷOT(複数人のグル			児)、保	育参観、個人懇談(個別:	支援計画など)、	らんらんフェスタ	(運動遊び)、	おたのしみ会(	表現遊び)、卒	、